

bào hǔ féng hé  
暴 虎 冯 河ぼう こひょう が じゅうじ  
暴虎冯河 〈述而第七〉

桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



子路は孔子の弟子の中では最も年長で、勇猛果敢な人物として名が知れわたっていました。孔子も、「由也果，于从政乎何有？(Yóu yě guǒ, yú cóng zhèng hū hé yǒu?)」。(由や果なり、政に従うに於いてや何か有らん)〈雍也第六〉と言って、常日ごろからその勇敢さを認め、政治に携わっても、問題なくやっていけるだろう、と評価していました。由とは子路の本名です。また、君主に仕えるにはどうしたらよいかと子路が尋ねた時、孔子は、「勿欺也，而犯之。(Wù qī yě, ér fàn zhī)」。(欺くこと勿れ。而して之を犯せ)〈憲問第十四〉と答えています。自分を欺くことなく、お上の機嫌を損ねるようなことがあっても、正しいと思ったら堂々と進言しなさい、という意味です。誠実で勇敢な子路の性格を見込んでの言葉です。しかし一方、子路の勇敢さは、孔子にとって危惧の種でもありました。その勇敢さは孔子の考える勇敢さとは少し違っていたからです。いつも勇み肌の子路の姿を見て、「若由也不得其死然。(Ruò yóu yě bù dé qí sǐ rán yě)」。(由やの若きはその死を得ざらん)〈先進第十一〉とも言っています。あんな調子ではまともな死に方をしないだろう、ということです。

ある時、孔子が顔回がんかいに向かって「任用されれば直ちに正義を実行し、捨て置かれれば秘かに時を待つ、そんなことができるのは私とお前ぐらいかな」と言ったことがあります。側で聞いていた子路は、自分よりはるかに年下の顔回が、日ごろ敬愛してやまない孔子と同列に扱われるのが甚だ面白くなかったのでしょう。すかさず「一国の大軍を率いる

としたら、先生は誰と共にされますか」と孔子に詰め寄りました。「軍事のことなら当然お前だよ」という答えを期待していたわけです。ところがその答えは子路にとって意外でした。

「暴虎冯河，死而无悔者，吾不与也。(Bào hǔ píng hé, sǐ ér bù huǐ zhě, wú bù yǔ yě)」(暴虎冯河、死して悔ゆる無き者は、吾與にせざるなり)〈述而第七〉。虎に素手で立向かい、大河を徒歩で渡り、死んでも悔いがないような無謀な者と一緒に行動するわけにはいかない。これが孔子の答えでした。「暴虎冯河」は無謀な行為を表わす四字熟語として今でも使われることがあります。「暴虎冯河の勇」とも言います。

孔子はさらに続けます。「必也临事而懼，好谋而成者也。(Bì yě lín shì ér jù, hào móu ér chéng zhě yě)」。(必ずや事に臨んで懼れ、謀を好んで成す者なり)。戦争の怖さを自覚し、謀をめぐらし問題を解決する。そんな人と行動を共にしたい。戦闘よりも策略、武力よりも外交。名指しこそしていませんが、孔子が子路に告げたかったのはこのことです。それは孔子の持論であったと同時に、可愛い弟子に対する精一杯の心遣いであったと思われる。

しかし子路がそのことをどこまで理解していたか。やがて子路は自ら仕えていた衛の国の内乱に進んで身を投じ、戦死してしまいます。その最期は、勇猛の士に相応しいものであったと伝えられますが……。